米第七艦隊の主力攻撃型空母ミッドウェイが横須賀を母港にしようとしている。ＳＲＦの返還一日米共同使用、そして家族の移住を終了させたあとはミッドウェイの到着だけという事態にある。

アジアの軍事的要石、沖縄の返還、そして自衛隊の沖縄への派兵、防衛二法の成立、四次防、こうしたことが「アジアの平和は日本の平和」ということをもって、ベトナム和平を巡り急転回に進行している。

また、自衛隊は沖縄派兵を海外派兵の一歩として、海外への軍事的独自的展開力をつけ国内へは治安訓練や、自衛隊の立川進駐をテコにプロレタリア革命への軍事的圧殺を更に強化している。

折しも長沼ナイキ基地訴訟で、自衛隊違憲判決が出るや、ブルジョワジーは「合憲」キャンペーンではなく、逆に自衛隊では不充分であり、海外派兵も出来る日本軍の公然たる軍隊を作るべきだというキャンペーンを行ないはじめた。そして、改憲論争をおこなおうとしている。

かかる軍事的統治機構の再編が、同時にベトナム和平一「平和共存」体制作りと共に進行していることにも注目しなければならない。この「平和共存」、即ち、現状を維持する、こうしたことが実は、革命や反乱は平和を維持するものではないとして、当然もえあがるプロレタリア人民の決起を軍事的に圧殺する体制である。このことは米中米ソの関係の中で、ベトナム人民の決起が軍事的にも政治的にも圧殺されていったあの事態が、実は決起するプロレタリア人民の見殺し体制として「社会主義圏を巻き込んで作られようとしている。

まして現在、腐敗をきわめてゆくこのブルジョワ市民社会の中で、プロレタリア人民の決起を押しとどめる何があるのか。今更、資本と賃労働の矛盾を云々するまでもなく、国際通貨危機、スタグフレーションと戦後資本制生産様式の構造的矛盾はあますところなく暴露され、そのブルジョワ的解決、「列島改造」の名の下の列島大合理化攻撃、独占の集中、及び農業の切り捨て、等々とブルジョワジーとプロレタリアートの階級的対峙関係を鮮明にしている。

社民はこれまで「いのちと暮しを守る」と述べて階級闘争を小ブル的に固定化しようとしてきたことすら、もはや幻想をまきちらすことにはならなくなっている。この現在の対峙関係の中で、その社民は、「政権担当能力のある党」としてその対峙関係を議会内における政権構想で議会主義的に収約をきめこまざるをえない。「いのちと暮しを守る。」このスローガンが現在の階級闘争の中で切実性直接性としてあるが故に、それだけでは何も言ったことにならなくなってきているのだ。

いずれにせよ、ブルジョワ市民社会の構造的矛盾は、ますます階級対立を根底的なところで浮きぼりにしている。もちろん、我々はその間隙をぬって「私有財産を守れ！」として、反独占、反革命のファシズム大衆運動の登場も見忘れてはならない。かかる

かかる情勢の中で、「都市問題」は矛盾を集約的にも露ていしたが、もちろん「美濃部」の解決能力はゼロに等しいどころか、逆に合理化を推進するという反労働者的なシロモノでしかなかった。ところが、ブルジョワジーの解決の方策は何であったのか？それこそ、立川の自衛隊進駐であったこと。即ち、治安部隊を都市に集中させ、治安体制を作りあげることだった。この八月、新潟でおこなわれた五泉市の「防災訓練」では連隊長が記者会見の席上、「敵の目をくらませながら渡河演習するのが今回の作戦の主目的であるから、労働者や農民が阻止闘争をするというのはこの演習には格好の状態である」とのべ、当日阻止のスクラムを組む労働者人民に向かって自衛隊が突撃しているのだ。こうした治安出動の部隊を立川に進駐させることが、実は八方破れ、労働者人民皆殺しのブルジョワ的解決なのだ。

今国会において、筑波、防衛二法を成立せしめたブルジョワジーは選挙改革に着手し、崩壊しつつある議会制ブルジョワ支配を延命させんとしている。そして更には、刑法の全面的改悪を通して軍事的官僚的統治機構を強化し、列島　監獄を作りあげようとしているのだ。

七〇年代中期に突入し、階級攻防戦の一つひとつが、実は重大な階級闘争の勝利かそれとも窒息かという事態、攻撃をうけつつ進まざるをえないだろう。勿論、負けてよい革命などありゃしない。我々学苑会の闘争も労働者人民の闘争と交流し結合してくる中でその中身の豊富さ、そして永続革命の勝利に向けた質を勝ちとりつつ突き進んでい

再開狭山差別裁判糾弾、部落解放の闘いを無実の石川青年に学び共に闘いつつ、在日アジア人民への差別と闘い、差別と分断を許さぬ階級的団結を作りあげつつ闘おうではないか。

反戦・反軍反基地闘争を強化し常備軍の解体とコミューンの党武装に向けて闘いを進めようではないか。

マルクスは言った。「プロレタリア革命の場合たえず自己を批判し、自らの歩みを中断して一応完成したと思えるものに立ち戻りはじめからやり直すのである。」めくりめく一年ののちに、再び駿台祭を開催し、闘争の勝利に向けて、共に飛躍しよう。「自らの目的のはかり知れぬ大きさにたえずたじろぎながらも」

祝　駿台祭

千歳建設株式会社

板橋区仲宿五十二番十三号
TEL（六九一）一一六七
六五三九